



業況 DI は 4.6 ポイントの低下。低下は 4 期ぶり

～令和 7 年 1－3 月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和 7 年 1－3 月期の調査結果をご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況 DI は低下 ～

総合の業況 DI は、前期比 4.6 ポイント低下の▲26.3 となりました。

今後については 3 か月後が現在比 2.5 ポイント低下の▲28.8、半年後は同 0.8 ポイント低下の▲27.1 といずれも低下を見込んでいます。

2. 業種別特徴 ～ 業況 DI、建設業が改善 ～

製造業の業況 DI は、前期比 3.0 ポイント低下の▲23.3 となりました。中分類で見ると、一般機械（同 0.4 ポイント上昇の▲17.6）と、輸送用機械（同 5.9 ポイント上昇の▲13.0）はいずれも上昇した一方、電気機械（同 3.4 ポイント低下の▲19.3）は低下しました。

建設業の業況 DI は、前期比 1.6 ポイント上昇の▲1.6 となりました。

商業・サービス業の業況 DI は、前期比 7.3 ポイント低下の▲34.4 となりました。内訳を見ると、卸売業（同 19.7 ポイント低下の▲37.5）、小売業（同 8.9 ポイント低下の▲46.3）及び飲食店（同 3.4 ポイント低下の▲19.4）が低下した一方、サービス業（同 3.3 ポイント上昇の▲19.8）は上昇しました。

また、3 か月後は製造業が現在比 5.2 ポイント低下の▲28.5、建設業が同 13.2 ポイント低下の▲14.8、商業・サービス業は同 2.2 ポイント上昇の▲32.2、半年後は製造業が同 1.1 ポイント低下の▲24.4、建設業が同 7.2 ポイント低下の▲8.8、商業・サービス業は同 1.3 ポイント上昇の▲33.1 となり、製造業・建設業は低下、商業・サービス業は上昇を見込んでいます。

3. 規模別*特徴 ～ 各 DI はいずれも低下 ～

業況 DI は中規模企業が前期比 2.4 ポイント低下の▲19.4、小規模企業が同 7.2 ポイント低下の▲34.4 となりました。売上 DI は中規模企業が同 6.4 ポイント低下の▲9.9、小規模企業が同 10.1 ポイント低下の▲27.5、採算 DI は中規模企業が同 2.1 ポイント低下の▲25.0、小規模企業が同 5.8 ポイント低下の▲34.7 となりました。いずれの規模でも低下する結果となりました。

*中規模／小規模

製造業・建設業：300 人以下／20 人以下、商業・サービス業：100 人（小売業は 50 人）

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、6地区が低下 ～

地区別の業況DIでは前期より上昇したのは2地区（横浜、平塚）で、低下したのは6地区（川崎、横須賀、藤沢、相模原、厚木、足柄上・西湘）でした。特に変化の大きかったのは藤沢（前期比13.8ポイント低下の▲25.7）と、相模原（同13.7ポイント低下の▲28.7）でそれぞれ大きく低下しました。

3ヵ月後は、現在比で4地区（横須賀、平塚、藤沢、足柄上・西湘）が上昇、4地区（横浜、川崎、相模原、厚木）が低下を見込んでいます。

半年後では現在比で4地区（川崎、平塚、藤沢、足柄上・西湘）が上昇、その他の4地区（横浜、横須賀、相模原、厚木）が低下を見込んでいます。

5. その他（経営状況、主なコメント）

～ 経営状況、総合の売上が低下するも建設業は上昇 ～

経営状況では、「売上」が、総合で前期比8.1ポイント低下の▲18.0となりました。業種別では、製造業（同8.3ポイント低下の▲16.9）、商業・サービス業（12.7ポイント低下の▲24.3）がそれぞれ低下した一方、建設業（同12.5ポイント上昇の6.0）は大幅に上昇しました。

コメントでは、「需要の回復の予想が立たず、しばらくは不調が続きそうです。」「新築、リフォーム共に引き合いは増えている。」などの声が上がっていました。

【調査要領】

調査時期：令和7年2月

調査対象：県内中小企業2,000社

回答数：1,003社

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部企画広報課 徳田

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail kikaku@kipc.or.jp

令和7年1-3月期中小企業景気動向調査結果

1. 調査要領

- ・調査時期：令和7年2月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,003社（50.2%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	360	65.5%
建設業	250	124	49.6%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	519	43.3%
合計	2,000	1,003	50.2%

2. 調査結果

（1）総合

	令和6年			令和7年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲26.0	▲25.7	▲21.7	▲26.3	▲28.8	▲27.1
売上DI	▲15.4	▲15.3	▲9.9	▲18.0	—	—
採算DI	▲29.8	▲24.4	▲25.7	▲29.5	—	—

総合の業況DIは、前期比4.6ポイント低下の▲26.3となった。

経営状況では、売上DIは前期比8.1ポイント低下の▲18.0、また、採算DIは同3.8ポイント低下の▲29.5となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比2.5ポイント低下の▲28.8、半年後は同0.8ポイント低下の▲27.1を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和6年			令和7年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲30.1	▲30.3	▲20.3	▲23.3	▲28.5	▲24.4
売上DI	▲22.3	▲15.3	▲8.6	▲16.9	—	—
採算DI	▲32.6	▲20.0	▲22.7	▲23.3	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比3.0ポイント低下の▲23.3となった。

経営状況では、売上DIは、前期比8.3ポイント低下の▲16.9、採算DIは同0.6ポイント低下の▲23.3となった。

「中国向け、自動車関連は不調。スマホ関連は、12月まで好調であったが、2025年に入り、勢いは止まった。」「材料価格、人件費高騰の分、製品価格へ追いついていない。」「長引く円安傾向により、海外工場生産品のドル建て仕入によるコスト上昇を販売価格に全て転嫁できていないので、利益率が下がっている。」「といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比5.2ポイント低下の▲28.5、半年後は同1.1ポイント低下の▲24.4を見込んでおり、「生産要員不足が続くことが懸念される。」「年明けから、材料の値上がりが始まりました。採算の低下が見込まれます。」「業績が不透明です。電子部品等の生産が増えてくると、業績も良くなると思います。」「といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和6年			令和7年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
一般機械	▲37.2	▲21.6	▲18.0	▲17.6	▲28.4	▲31.4
電気機械	▲22.2	▲26.2	▲15.9	▲19.3	▲19.7	▲12.0
輸送用機械	▲26.3	▲33.3	▲18.9	▲13.0	▲23.1	▲19.6
その他	▲31.5	▲37.8	▲25.2	▲34.1	▲35.9	▲28.9

中分類で見ると、一般機械は前期比0.4ポイント上昇の▲17.6、電気機械は同3.4ポイント低下の▲19.3、輸送用機械は同5.9ポイント上昇の▲13.0となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比10.8ポイント低下の▲28.4、電気機械が同0.4ポイント低下の▲19.7、輸送用機械は同10.1ポイント低下の▲23.1、半年後は一般機械が同13.8ポイント低下の▲31.4、電気機械が同7.3ポイント上昇の▲12.0、輸送用機械は同6.6ポイント低下の▲19.6を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和6年			令和7年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲9.0	▲9.1	▲3.2	▲1.6	▲14.8	▲8.8
売上DI	▲17.7	▲10.7	▲6.5	6.0	—	—
採算DI	▲25.2	▲20.5	▲18.7	▲12.8	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比1.6ポイント上昇の▲1.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比12.5ポイント上昇の6.0、採算DIは同5.9ポイント上昇の▲12.8となった。

「新築、リフォーム共に引き合いは増えている。」「材料や賃金が上がった分を、転嫁できた分野は好調だが、一部できていない製品は赤字となっている。」「といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比13.2ポイント低下の▲14.8、半年後は同7.2ポイント低下の▲8.8を見込んでおり、「4月～7月頃までは、毎年入札工事もほぼ出ず、苦しい時期になる。今年度は、入札ほぼ取れず。」「入札件数が減っており、春以降の見通しがなかなか立たない。」「といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和6年			令和7年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲27.5	▲26.4	▲27.1	▲34.4	▲32.2	▲33.1
売上DI	▲10.2	▲16.4	▲11.6	▲24.3	—	—
採算DI	▲29.1	▲28.2	▲29.3	▲37.5	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比7.3ポイント低下の▲34.4となった。

経営状況では、売上DIは前期比12.7ポイント低下の▲24.3、採算DIは同8.2ポイント低下の▲37.5となった。「仕入高、経費高により、収益の確保が困難になっている。売上減により、まとまった仕入ができず、割高仕入となる悪循環に陥っている。ここ20年で最も苦しい状況。」「コロナ融資の返済が重荷になっている。思い切った設備投資や人材確保に予算が立てられない。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.2ポイント上昇の▲32.2、半年後は同1.3ポイント上昇の▲33.1を見込んでいる。「需要の回復の予想が立たず、しばらくは不調が続きそうです。」「従業員の年齢も上がり体力も衰え、若い人も入らず働く意欲が低下してきているので、先が心配です。」「若い人たちの給料、手取りが増えないと、飲食店で飲食、飲酒する回数が減るので、中小、零細企業の利益が上がらないと苦しい。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和6年			令和7年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
卸売業	▲23.2	▲31.3	▲17.8	▲37.5	▲42.0	▲39.8
小売業	▲42.5	▲36.4	▲37.4	▲46.3	▲40.4	▲43.8
飲食店	▲3.1	▲13.4	▲16.0	▲19.4	▲14.9	▲15.2
サービス業	▲18.5	▲11.9	▲23.1	▲19.8	▲20.3	▲19.7

業種別では、卸売業は前期比19.7ポイント低下の▲37.5、小売業は同8.9ポイント低下の▲46.3、飲食店は同3.4ポイント低下の▲19.4、サービス業は同3.3ポイント上昇の▲19.8となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比4.5ポイント低下の▲42.0、小売業は同5.9ポイント上昇の▲40.4、飲食店は同4.5ポイント上昇の▲14.9、サービス業は同0.5ポイント低下の▲20.3、半年後では卸売業が同2.3ポイント低下の▲39.8、小売業は同2.5ポイントト上昇の▲43.8、飲食店は同4.2ポイント上昇の▲15.2、サービス業は同0.1ポイント上昇の▲19.7を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和6年			令和7年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
中規模	業況DI	▲17.8	▲19.3	▲17.0	▲19.4	▲24.7	▲22.6
	売上DI	▲7.2	▲5.1	▲3.5	▲9.9	—	—
	採算DI	▲24.3	▲18.6	▲22.9	▲25.0	—	—
小規模	業況DI	▲35.0	▲33.2	▲27.2	▲34.4	▲33.7	▲32.4
	売上DI	▲24.5	▲27.4	▲17.4	▲27.5	—	—
	採算DI	▲35.9	▲31.3	▲28.9	▲34.7	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比2.4ポイント低下の▲19.4、小規模企業は同7.2ポイント低下の▲34.4となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比6.4ポイント低下の▲9.9、採算DIが同2.1ポイント低下の▲25.0、小規模企業は売上DIが同10.1ポイント低下の▲27.5、採算DIが同5.8ポイント低下の▲34.7となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比5.3ポイント低下の▲24.7、半年後が同3.2ポイント低下の▲22.6、小規模企業は3か月後が同0.7ポイント上昇の▲33.7、半年後が同2.0ポイント上昇の▲32.4を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和6年			令和7年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
横浜	▲29.1	▲25.9	▲22.2	▲20.2	▲30.9	▲26.8
川崎	▲27.1	▲35.1	▲27.6	▲33.3	▲36.4	▲29.4
横須賀	▲15.2	▲20.7	▲27.5	▲27.8	▲22.1	▲28.7
平塚	▲40.0	▲29.0	▲30.4	▲29.4	▲26.8	▲27.1
藤沢	▲22.6	▲17.8	▲11.9	▲25.7	▲17.5	▲16.5
相模原	▲29.4	▲30.3	▲15.0	▲28.7	▲29.9	▲30.6
厚木	▲24.8	▲17.6	▲15.8	▲24.3	▲35.3	▲36.3
足柄上・西湘	▲13.8	▲25.7	▲21.3	▲29.5	▲26.7	▲22.0

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比2.0ポイント上昇の▲20.2）、川崎地区（同5.7ポイント低下の▲33.3）、横須賀地区（同0.3ポイント低下の▲27.8）、平塚地区（同1.0ポイント上昇の▲29.4）、藤沢地区（同13.8ポイント低下の▲25.7）、相模原地区（同13.7ポイント低下の▲28.7）、厚木地区（同8.5ポイント低下の▲24.3）、足柄上・西湘地区（同8.2ポイント低下の▲29.5）となり2地区で上昇し、6地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比10.7ポイント低下の▲30.9）、川崎地区（同3.1ポイント低下の▲36.4）、横須賀地区（同5.7ポイント上昇の▲22.1）、平塚地区（同2.6ポイント上昇の▲26.8）、藤沢地区（同8.2ポイント上昇の▲17.5）、相模原地区（同1.2ポイント低下の▲29.9）、厚木地区（同11.0ポイント低下の▲35.3）、足柄上・西湘地区（同2.8ポイント上昇の▲26.7）となり4地区で上昇し、4地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比6.6ポイント低下の▲26.8）、川崎地区（同3.9ポイント上昇の▲29.4）、横須賀地区（同0.9ポイント低下の▲28.7）、平塚地区（同2.3ポイント上昇の▲27.1）、藤沢地区（同9.2ポイント上昇の▲16.5）、相模原地区（同1.9ポイント低下の▲30.6）、厚木地区（同12.0ポイント低下の▲36.3）、足柄上・西湘地区（同7.5ポイント上昇の▲22.0）となり4地区で上昇し、4地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 徳田

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和7年1月～3月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		360	124	104	217	67	131	519	1,003
業況判断	現在の業況	▲23.3	▲1.6	▲37.5	▲46.3	▲19.4	▲19.8	▲34.4	▲26.3
	3ヶ月後の業況	▲28.5	▲14.8	▲42.0	▲40.4	▲14.9	▲20.3	▲32.2	▲28.8
	半年後の業況	▲24.4	▲8.8	▲39.8	▲43.8	▲15.2	▲19.7	▲33.1	▲27.1
経営状況	売上	▲16.9	6.0	▲27.7	▲34.3	▲13.4	▲10.9	▲24.3	▲18.0
	採算	▲23.3	▲12.8	▲32.7	▲45.1	▲51.5	▲21.7	▲37.5	▲29.5
	引き合い／客数	▲9.8	▲2.6	▲15.0	▲39.0	▲30.3	▲11.0	▲26.0	▲17.4
	単価	16.4	21.6	▲7.1	▲15.2	▲1.5	3.9	▲7.0	4.9
	仕入価格	▲69.8	▲67.5	▲71.0	▲78.9	▲91.0	▲57.3	▲73.6	▲71.5
	資金繰り	▲22.3	▲12.0	▲23.8	▲37.0	▲41.8	▲21.4	▲31.1	▲25.6
	残業	▲12.4	▲9.5	▲12.9	▲11.5	▲21.2	▲7.8	▲12.1	▲11.9
	設備稼働	▲12.7	▲8.0	—	—	—	—	—	▲11.5
前期経営実績	売上水準	▲11.8	▲7.7	▲7.9	▲29.8	▲1.5	▲11.7	▲17.2	▲14.2
	利益水準	5.4	6.0	6.0	▲20.6	▲9.0	▲2.3	▲9.2	▲2.2
	在庫	12.1	▲3.7	14.0	▲0.5	1.5	▲2.6	2.2	5.2
	投資	▲4.6	▲4.4	▲10.1	▲9.1	▲11.9	▲5.1	▲8.7	▲6.7
	雇用状況	▲22.1	▲50.0	▲22.0	▲24.0	▲46.3	▲34.1	▲29.1	▲29.1

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (令和6年10月～12月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		355	124	101	222	75	130	528	1,007
業況判断	現在の業況	▲20.3	▲3.2	▲17.8	▲37.4	▲16.0	▲23.1	▲27.1	▲21.7
	3ヶ月後の業況	▲20.6	▲9.2	▲29.3	▲44.5	▲21.6	▲23.6	▲33.2	▲25.9
	半年後の業況	▲24.3	▲16.1	▲27.3	▲44.0	▲21.9	▲19.8	▲31.7	▲27.2
経営状況	売上	▲8.6	▲6.5	▲14.9	▲19.2	8.0	▲7.7	▲11.6	▲9.9
	採算	▲22.7	▲18.7	▲21.0	▲39.7	▲31.1	▲17.1	▲29.3	▲25.7
	引き合い／客数	▲5.5	0.0	▲13.0	▲39.1	▲2.7	▲12.5	▲22.5	▲13.7
	単価	15.2	15.3	▲2.1	▲19.8	20.3	6.3	▲4.3	5.1
	仕入価格	▲69.8	▲69.4	▲74.0	▲78.1	▲84.9	▲66.7	▲75.5	▲72.7
	資金繰り	▲24.5	▲12.2	▲13.0	▲39.3	▲35.6	▲19.4	▲28.8	▲25.2
	残業	▲7.8	▲12.2	▲9.1	▲15.4	▲6.9	▲10.2	▲11.7	▲10.4
	設備稼働	▲9.0	▲5.0	—	—	—	—	—	▲8.0
前期経営実績	売上水準	▲23.3	▲4.1	▲16.8	▲34.1	▲21.6	▲15.4	▲24.4	▲21.5
	利益水準	▲14.2	4.1	3.0	▲28.1	▲19.4	1.6	▲13.6	▲11.6
	在庫	12.0	0.9	15.2	3.7	▲1.4	▲4.3	3.3	6.1
	投資	▲6.4	▲5.9	▲8.4	▲14.0	▲16.4	▲9.2	▲12.1	▲9.3
	雇用状況	▲20.3	▲54.5	▲18.4	▲18.6	▲50.7	▲39.4	▲28.3	▲28.8

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		186	174	62	62	289	230	537	466
業 況 判 断	現在の業況	▲23.7	▲23.0	14.5	▲17.7	▲23.9	▲47.6	▲19.4	▲34.4
	3ヶ月後の業況	▲27.1	▲30.1	1.7	▲32.1	▲28.6	▲36.8	▲24.7	▲33.7
	半年後の業況	▲23.9	▲25.0	3.4	▲21.4	▲27.1	▲40.6	▲22.6	▲32.4
経 営 状 況	売上	▲13.7	▲20.4	6.8	5.2	▲10.9	▲41.2	▲9.9	▲27.5
	採算	▲23.1	▲23.5	▲11.9	▲13.8	▲29.0	▲48.2	▲25.0	▲34.7
	引き合い／客数	▲3.8	▲16.6	5.1	▲10.3	▲19.0	▲34.8	▲10.9	▲24.9
	単価	18.8	13.9	19.0	24.1	▲1.4	▲14.0	7.9	1.3
	仕入価格	▲69.8	▲69.9	▲71.2	▲63.8	▲68.3	▲80.3	▲69.2	▲74.3
	資金繰り	▲17.7	▲27.3	▲1.7	▲22.4	▲25.9	▲37.7	▲20.3	▲31.8
	残業	▲11.5	▲13.3	▲6.8	▲12.3	▲7.1	▲18.5	▲8.6	▲15.7
	設備稼働	▲14.4	▲10.8	▲1.7	▲15.1	—	—	▲11.3	▲11.9
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲8.7	▲15.2	▲6.8	▲8.6	▲4.2	▲33.5	▲6.1	▲23.6
	利益水準	9.8	0.6	11.9	0.0	4.2	▲26.1	7.0	▲12.9
	在庫	15.4	8.5	▲5.3	▲2.0	3.6	0.5	6.8	3.2
	投資	0.6	▲10.3	0.0	▲9.3	▲4.0	▲14.5	▲1.9	▲12.3
	雇用状況	▲23.0	▲21.1	▲55.9	▲43.9	▲36.2	▲20.1	▲33.8	▲23.5

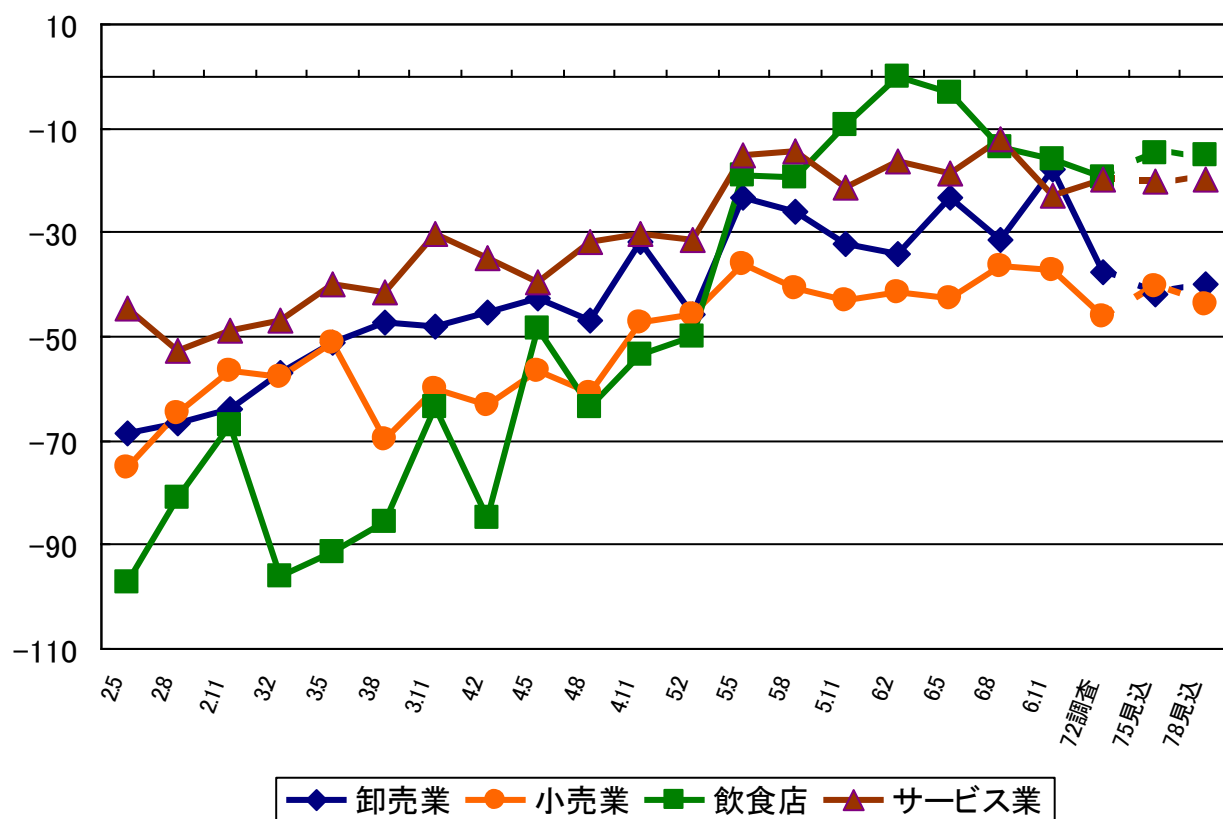
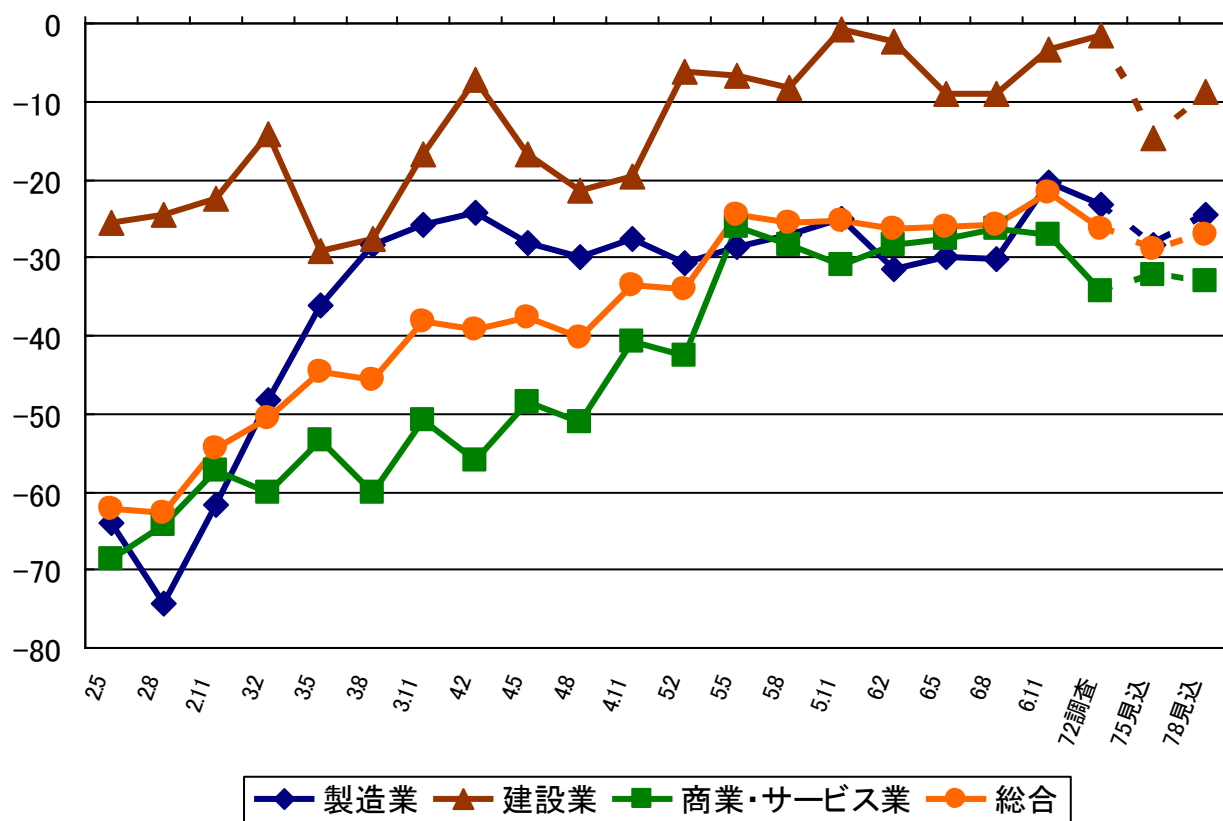
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		268	129	97	102	105	94	103	105	1,003
業 況 判 断	現在の業況	▲20.2	▲33.3	▲27.8	▲29.4	▲25.7	▲28.7	▲24.3	▲29.5	▲26.3
	3ヶ月後の業況	▲30.9	▲36.4	▲22.1	▲26.8	▲17.5	▲29.9	▲35.3	▲26.7	▲28.8
	半年後の業況	▲26.8	▲29.4	▲28.7	▲27.1	▲16.5	▲30.6	▲36.3	▲22.0	▲27.1
経 営 状 況	売上	▲14.2	▲14.4	▲31.3	▲10.1	▲8.7	▲19.1	▲28.4	▲25.5	▲18.0
	採算	▲28.6	▲36.0	▲29.2	▲25.3	▲28.2	▲32.6	▲34.3	▲21.8	▲29.5
	引き合い／客数	▲13.8	▲12.9	▲20.0	▲22.7	▲15.8	▲20.5	▲22.8	▲18.0	▲17.4
	単価	3.1	2.5	4.2	6.2	13.6	10.2	▲2.0	5.0	4.9
	仕入価格	▲73.7	▲73.0	▲69.5	▲71.7	▲71.8	▲68.2	▲62.4	▲77.5	▲71.5
	資金繰り	▲27.0	▲19.4	▲26.9	▲25.3	▲18.4	▲29.5	▲28.4	▲30.0	▲25.6
	残業	▲7.8	▲8.1	▲22.9	▲9.2	▲11.7	▲13.6	▲16.8	▲12.7	▲11.9
	設備稼働	▲10.3	▲3.1	▲7.7	▲14.6	▲27.1	▲10.4	▲13.0	▲9.5	▲11.5
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲9.6	▲22.0	▲10.4	▲15.2	▲17.5	▲17.0	▲18.8	▲8.0	▲14.2
	利益水準	2.3	▲6.3	▲7.3	2.0	▲1.9	▲3.4	▲2.0	▲7.0	▲2.2
	在庫	3.2	5.7	4.3	7.2	2.0	11.6	0.0	11.1	5.2
	投資	▲5.9	▲5.7	1.1	▲15.5	▲7.9	▲7.1	▲11.9	▲2.0	▲6.7
	雇用状況	▲31.3	▲26.0	▲33.7	▲27.6	▲26.5	▲33.0	▲21.8	▲31.0	▲29.1

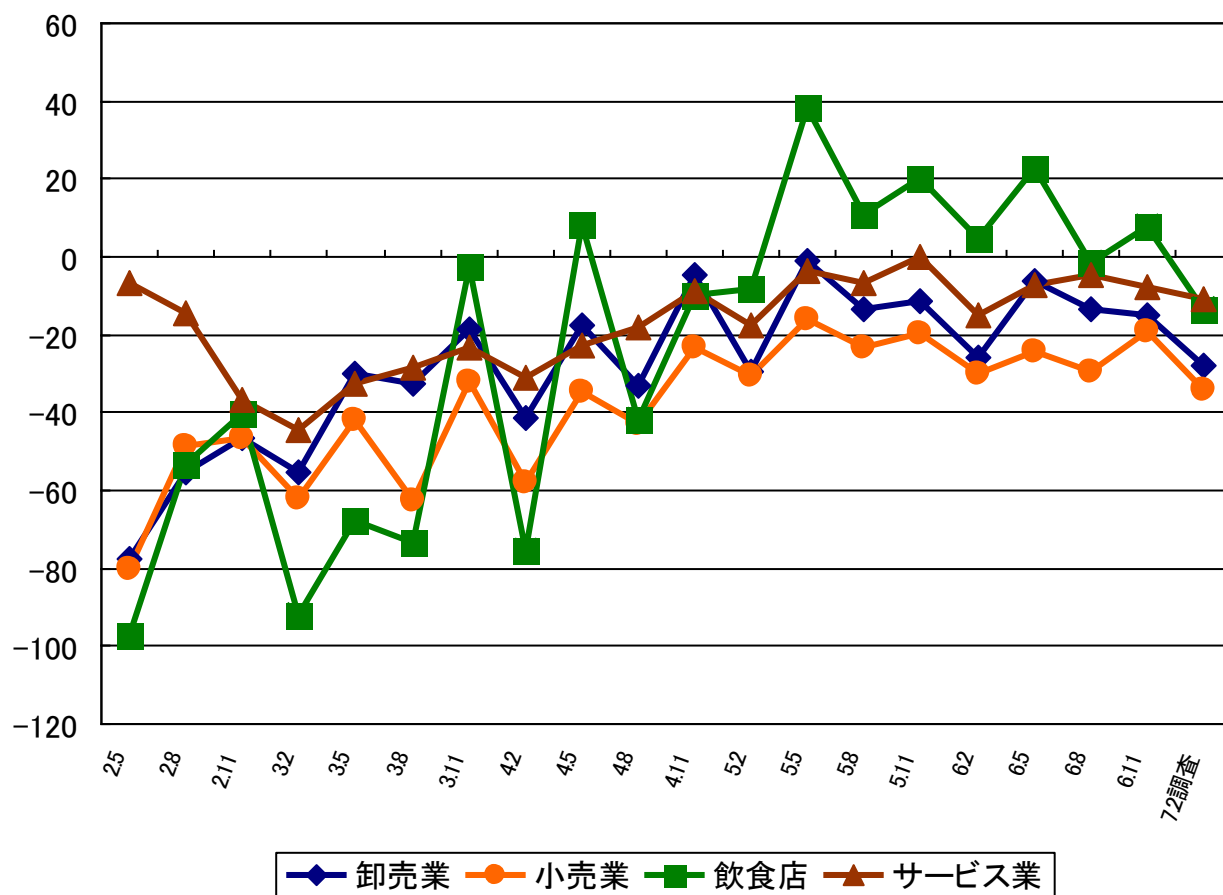
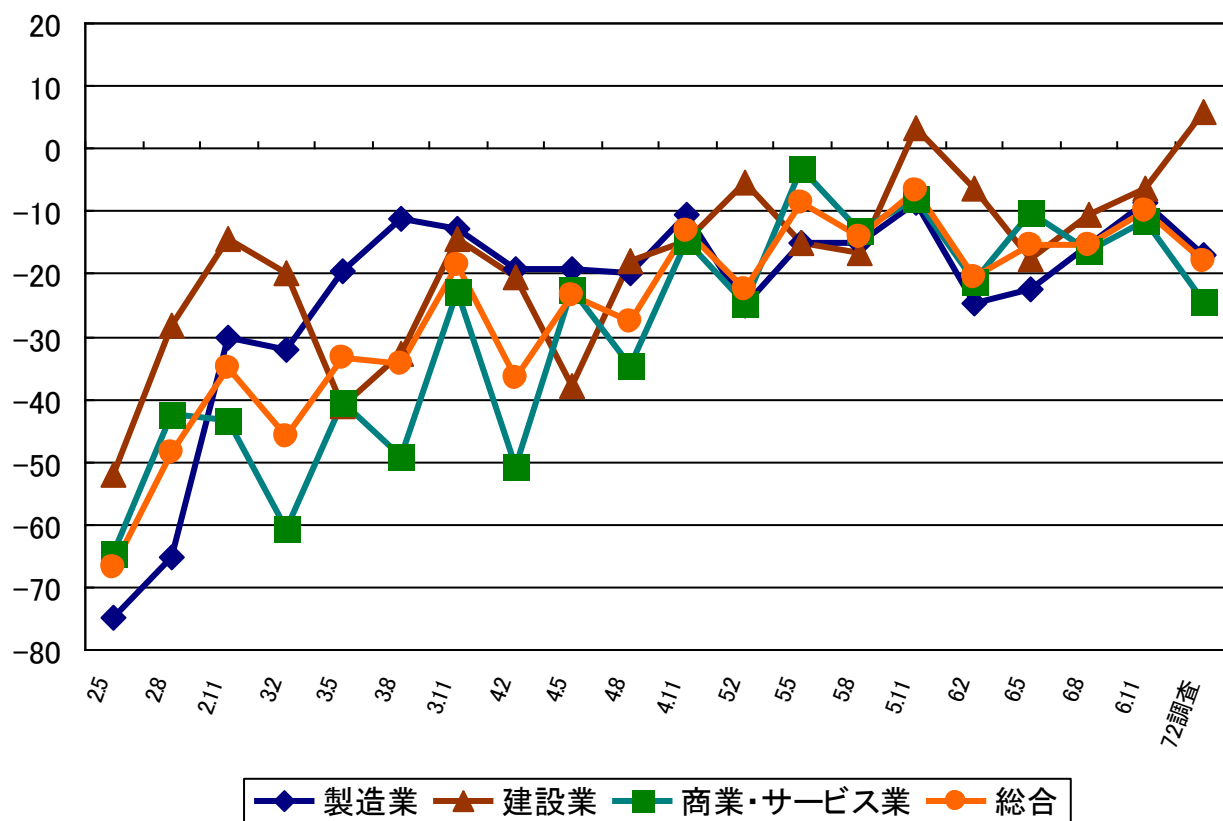
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		91	83	54	132	360
業 況 判 断	現在の業況	▲17.6	▲19.3	▲13.0	▲34.1	▲23.3
	3ヶ月後の業況	▲28.4	▲19.7	▲23.1	▲35.9	▲28.5
	半年後の業況	▲31.4	▲12.0	▲19.6	▲28.9	▲24.4
経 営 状 況	売上	▲17.6	▲6.6	▲5.7	▲26.9	▲16.9
	採算	▲17.6	▲9.2	▲28.3	▲33.6	▲23.3
	引き合い／客数	▲12.2	4.0	▲9.6	▲16.3	▲9.8
	単価	17.6	13.3	11.3	19.5	16.4
	仕入価格	▲63.7	▲64.0	▲67.9	▲78.3	▲69.8
	資金繰り	▲22.0	▲16.0	▲25.0	▲25.0	▲22.3
	残業	▲9.9	▲1.3	▲20.8	▲17.1	▲12.4
	設備稼働	▲9.9	1.3	▲13.2	▲22.7	▲12.7
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲8.8	▲6.8	▲13.2	▲16.3	▲11.8
	利益水準	5.5	16.0	▲1.9	2.3	5.4
	在庫	9.9	14.7	9.6	13.3	12.1
	投資	▲7.8	▲4.0	1.9	▲5.4	▲4.6
	雇用状況	▲24.2	▲29.3	▲17.0	▲18.5	▲22.1

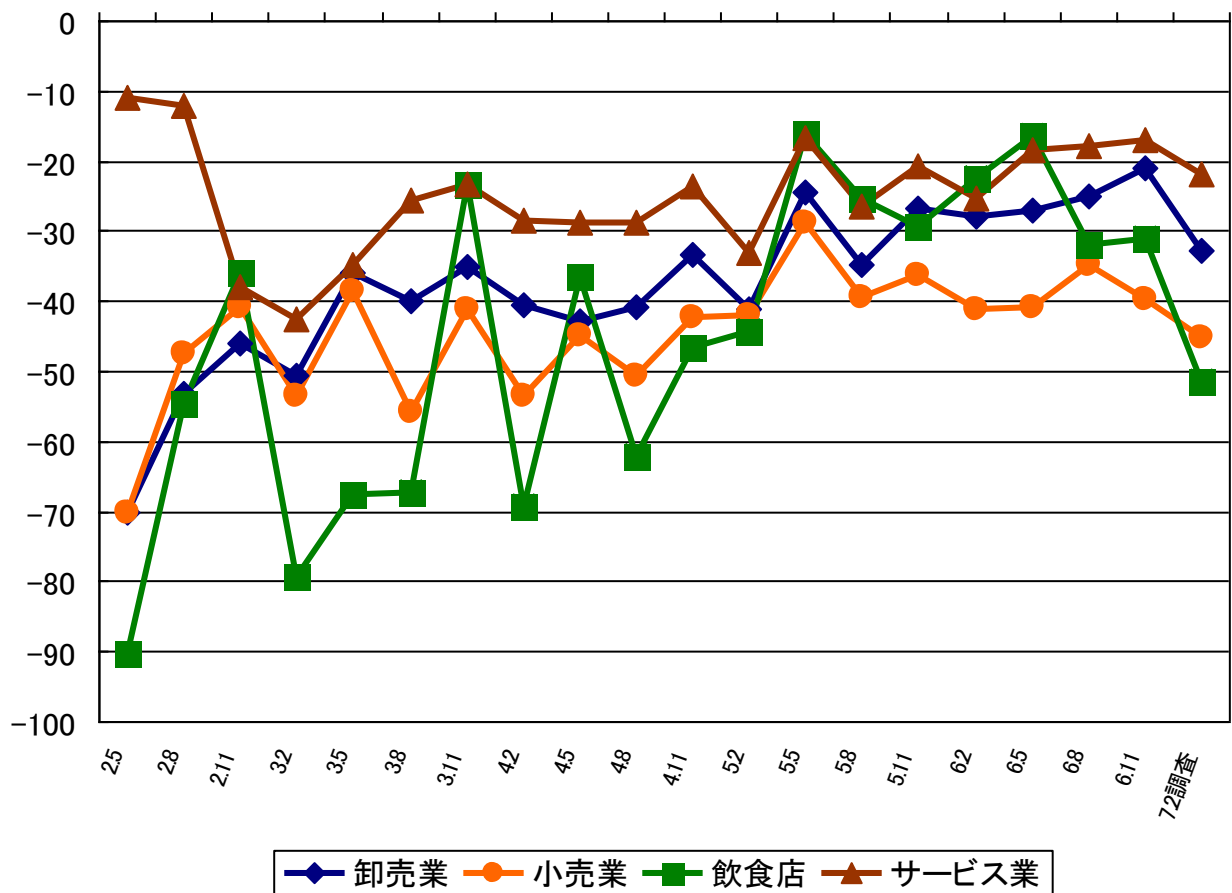
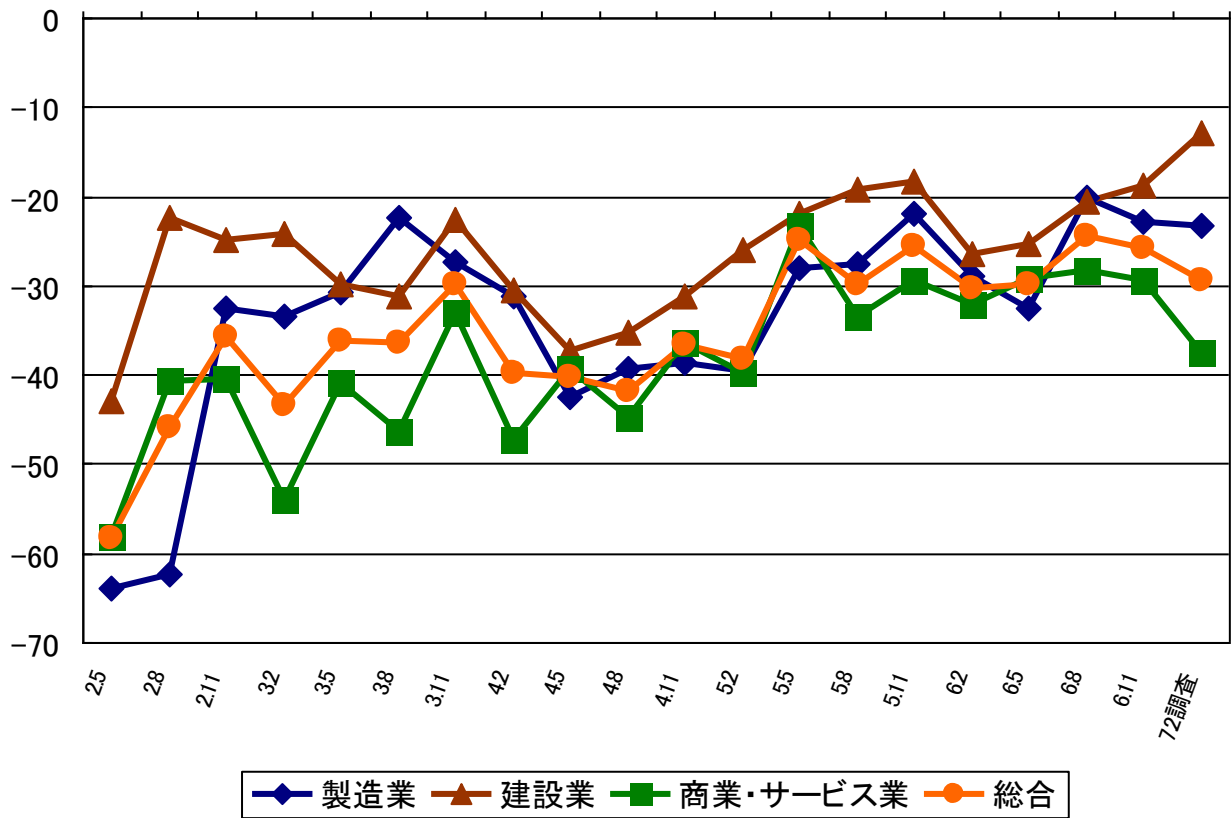
業況DIの推移



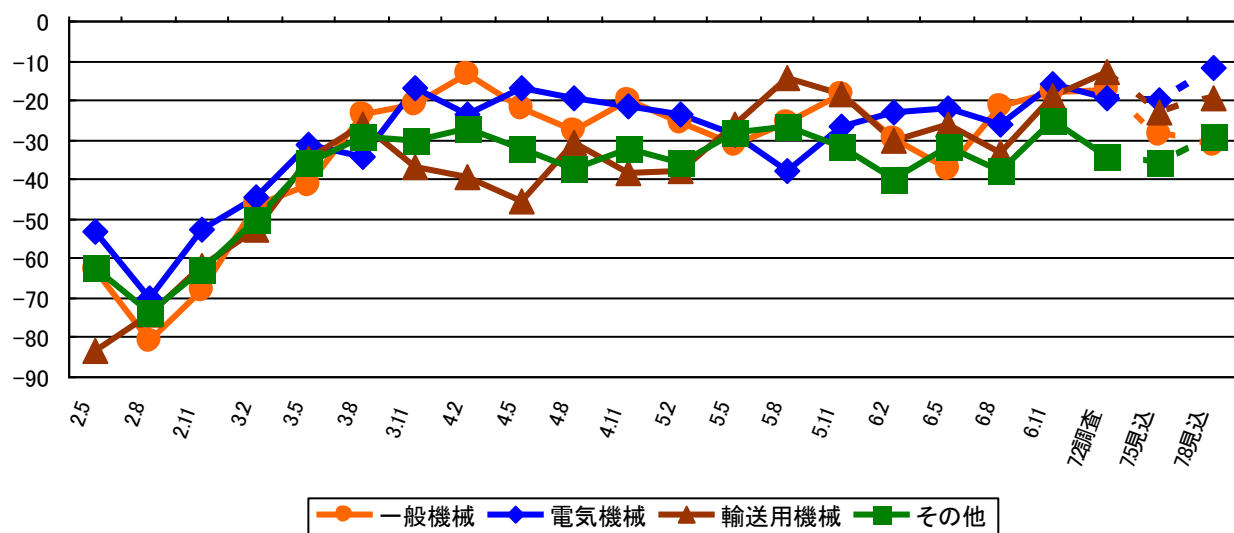
売上DIの推移



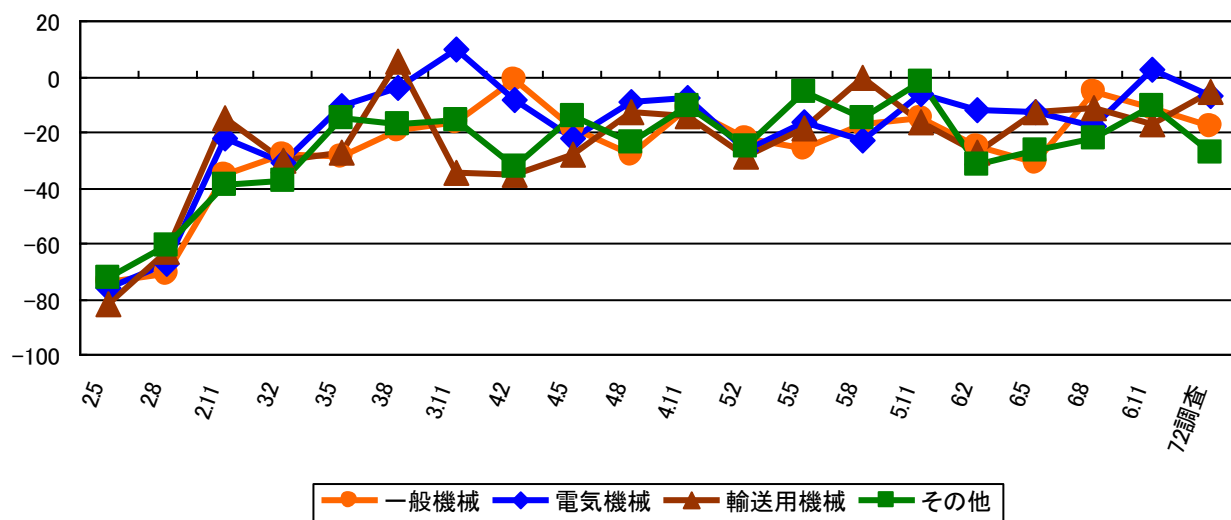
採算DIの推移



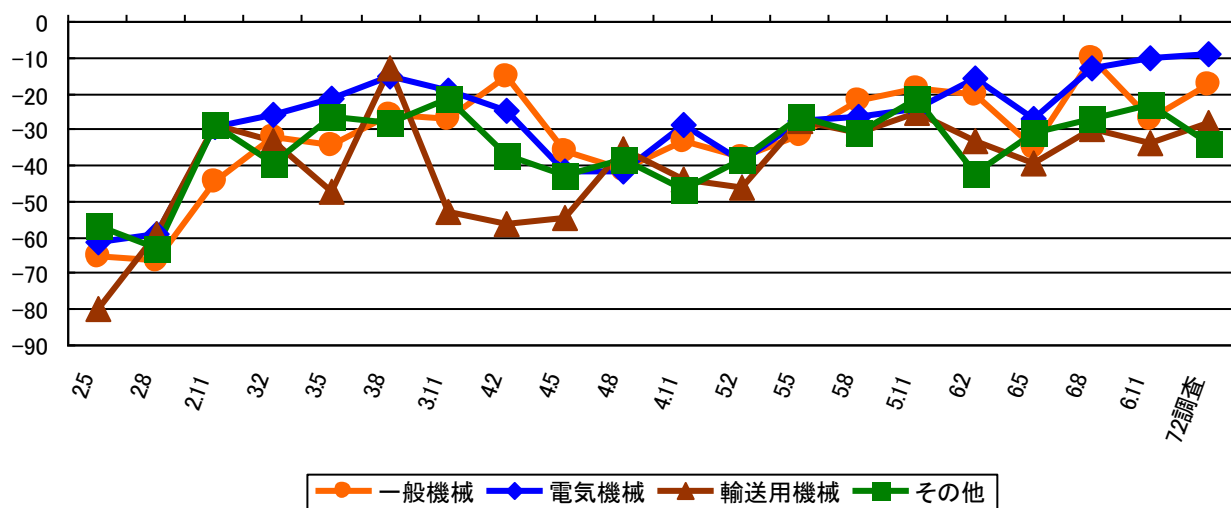
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

「事業再編が実施されるなど既存顧客は更に不透明感が増している。また、昨年来各顧客で言われていた在庫過多が現在の受注低迷に与えているインパクトは少なく、我慢していても好転は望めないと判断。新規顧客の獲得が緊急課題として捉えている。」
「建機、トラック関連の低迷と生産終了が重なり、大幅な受注減少が続く。」
「中国向け、自動車関連は不調。スマホ関連は、12月まで好調であったが、2025年に入り、勢いは止まった。」
「生産要員不足が続くことが懸念される。」
「春のベースアップがあり、経営的には厳しい時代に入ってきます。いかに得意の製品を多く取れるのが、1つの課題になります。」
「年明けから、材料の値上がりが始まりました。採算の低下が見込まれます。」
「材料価格、人件費高騰の分、製品価格へ追いついていない。」
「長引く円安傾向により、海外工場生産品のドル建て仕入によるコスト上昇を販売価格に全て転嫁出来ていないので、利益率が下がっている。」
「デジタル化が急速に進んで、仕事が減っている。」
「中国経済が悪くて困っているところにまた、米中摩擦が起きそうで不安です。」
「値上げ交渉に応じていただけないため、原材料費ならびに光熱費・人件費高騰の影響により利益減となっている。若返り(技術承継)のための人材確保のために雇用が過剰(固定費が上がってしまっている)となっている。」
「主力防衛産業分野が好調である。この先3年程度はこの分野は好調である。」
「ホテル向け専用の省エネ電子機器メーカーです。インバウンド増加と、客室単価のUPが昨年から見えてきて、やっとホテルの設備投資が増えてきて、我が社の売上率も伸びてきて、ホッとしています。」
「コネクタ電子部品の事業は、値上げ20%効果で、収益が改善された。ロボット受託事業は、外注技術者により売上、収益が改善され、上昇にあります。」
「昨年10月以降、円安や部品不足などの影響で受注にブレーキがかかっている状況。また、固定費の上昇により利益を圧迫しており先々が不透明過ぎて、設備投資や賃金UPをしたくても難しい状況。(価格転嫁が出来るのは一次二次のサプライヤーのみ)神奈川県での製造は価格が高くなる為、毎年減少している状況で研究開発や倉庫が中心。今後継続する為には地方移転の検討をせざるを得ないでしょう。」
「半導体製造装置業界の市況乱高下が常に懸念事項となる。国内経済(賃上げ機運等)や世界政治的リスクに影響を受けるため、堅実な経営に徹している。」
「業績が不透明です。電子部品等の生産が増えてくると、業績も良くなると思います。」

<建設業>

「官庁工事の受注不足。」
「利益率が下がっている。人件費高騰が経営を圧迫している。」
「材料や賃金が上がった分を、転嫁できた分野は好調だが、一部出来ていない製品は赤字となっている。」
「新築、リフォーム共に引き合いは増えている。」
「3月以降、民間工事が多くなっている。」
「4月～7月頃までは、毎年入札工事もほぼ出ず、苦しい時期になる。今年度は、入札ほぼ取れず。」
「市の入札が良好。」
「人材雇用難、雇用環境の多様性必要。」
「公共工事入札不調。」
「入札件数が減っており、春以降の見通しがなかなか立たない。」

<卸売業>

「需要の回復の予想が立たず、しばらくは不調が続きそうです。」
「自動車、鋼製家具、建材等全て、受注が少ない。」
「物価高により、昨年より更に実質賃金が下がっている印象を受けます。我々のようなレジャー業界では可処分所得の減少は痛手であり、また、輸入品を多く扱っていることから輸入品のコスト高も続いている現状は厳しいです。」
「電子部品業界への販売減。照明の販売減。」
「諸物価、税金増加に対し、賃金を継続して上げられるかが問われる。」
「仕入高、経費高により、収益の確保が困難になっている。売上減により、まとまった仕入が出来ず、割高仕入となる悪循環に陥っている。ここ20年で最も苦しい状況。」
「従業員の年齢も上がり体力も衰え、若い人も入らず働く意欲が低下してきているので、先が心配です。」
「円安、原価高騰の影響が続いていて、見通しは暗い。」
「仕入単価が上がって、利益率も悪くなっている。仕入単価の上昇と客単価の上昇が伴わない。」

<小売業>

「効率を上げることが出来れば、利益を上げれる状況だと思います。」
「諸々値上げの為、物品購入が減っていると思います。」
「見通しは、ありません。(仕入れ、問屋の減少、客数の減少、資金繰りが悪い)」
「来店客が減っている。コロナより少しづつ減っていて、戻らない。」
「駅前商店街内にあるが、商店街の人通りがない。業況はシーズンによって上下する。」
「年末は毎年、お客様は少ないが今年に入ってから春節になっても外国人の売上が少ない。日本人は相変わらず財布のひもが固い。」
「衣料品は、天候や物価高などに左右されやすく、必要でない限り、後回しにされる。コロナ後は、特に影響があり売上が上がらない。」
「仕入れ先の問屋さんが廃業したり、縮小したりで商品が揃わないことが有る。店舗での対面販売をメインにしているがお客さんはネットで購入したりしていますので売り上げが低下してます。」
「季節変動が多く、夏商戦良好も、秋冬は不良。6年夏季エアコン好調。」
「年末以降、季節としての寒さは充分ですが、一般消費者の資金に余裕がない為か、衣料品に回すお金が減っているような気がします。」
「相変わらず、大手量販店の安売りの影響により、売上・利益とも厳しい状況が続いている。」
「これから繁忙期を迎えるので売上げが見込める。しかし昨年より従業員が増えており最低賃金上昇により人件費も増加している。繁忙期が終わるとすぐに閑散期となるので、繁忙期にどれだけ利益を確保出来るかが勝負。」
「好調の要因は、物価高によるもので、格安店に来店している傾向。不調の原因は、近隣の競合店の影響。」
「原油価格の高騰、国の補助金の減額により、ガソリン販売価格が高騰していて非常に厳しい。」
「貴金属価格・資材・人件費その他手数料すべてが高騰している。価格転嫁は進めているが、受注数の伸び悩みが現状である。」
「景気の影響もあると思われるが、低価格量販店に顧客が流れている傾向。仕入価格等の上昇。」

<飲食店>

「この調子で、インバウンドのお客様が増えてくれれば良いのですが。。。」
「人件費増加、商品仕入価格の高騰。利益が出ない。」
「野菜や調味品の値上がりが痛い。」
「値上げを控えて、なんとか赤字を出さずにやっていますが、そろそろ限界。」
「人件費の上昇、仕入の上昇が止まらない。しかし、値上げは出来ない。」
「状況悪いのは、人手不足に尽きる。」
「コメの備蓄放出次第」
「肉に限らず、ほとんどの仕入れ食材が高くなっている。商品単価を上げれば、客離れが起きるので、利益の確保が難しい。」
「住民税や所得税が問題ではなく親の扶養から外れる、社会保険に加入等の急激な壁がある限りアルバイト、パートの人手不足は無くならない。」
「値上げにより、客単価が上昇している関係で、売上自体は上がっているが客数が減少し、仕入価格、人件費増を充分価格転嫁できていないため、利益幅は減少傾向にある。」
「コロナ融資の返済が重荷になっている。思い切った設備投資や人材確保に予算が立てられない。」
「観光地の付帯施設の為インバウンド需要で好調を維持している。インバウンドに頼りがちな面もあるので落ち着いてしまった時がコロナ禍の時の様になるのではないかと懸念される。」
「仕入額の高騰がいつまで続くのか、利益額の確保が難しい。」

<サービス業>

「採用難に直面しています。」
「コロナ時の融資返済が苦しく、設備など資金繰りに苦慮している。」
「車で移動が多いので、ガソリン代の値上げ、切手代の値上げがきつい。運営費が出て来ない。」
「スタッフが不足気味で、受入が出来ない。受入が出来れば、売上げが見込める。」
「世代交代のため、新規の採用が増え、人件費が高くなっている。」
「雇用拡充により、受注効率を上げて業績の向上に繋げたい。」
「若い人たちの給料、手取りが増えないと、飲食店で飲食、飲酒する回数が減るので、中小、零細企業の利益が上がりませんと苦しい。」
「業績は平常だが、交通費等や消耗品、エネルギー価格の上昇、雇用経費の上昇にて利益は上がらない。採用も人材不足にてなかなか増員できない。」
「VR活用など新たなビジネスモデルを検討中。」